

# 伊賀市の道路橋のこれから

持続可能なインフラメンテナンスに向けた集約・撤去

---

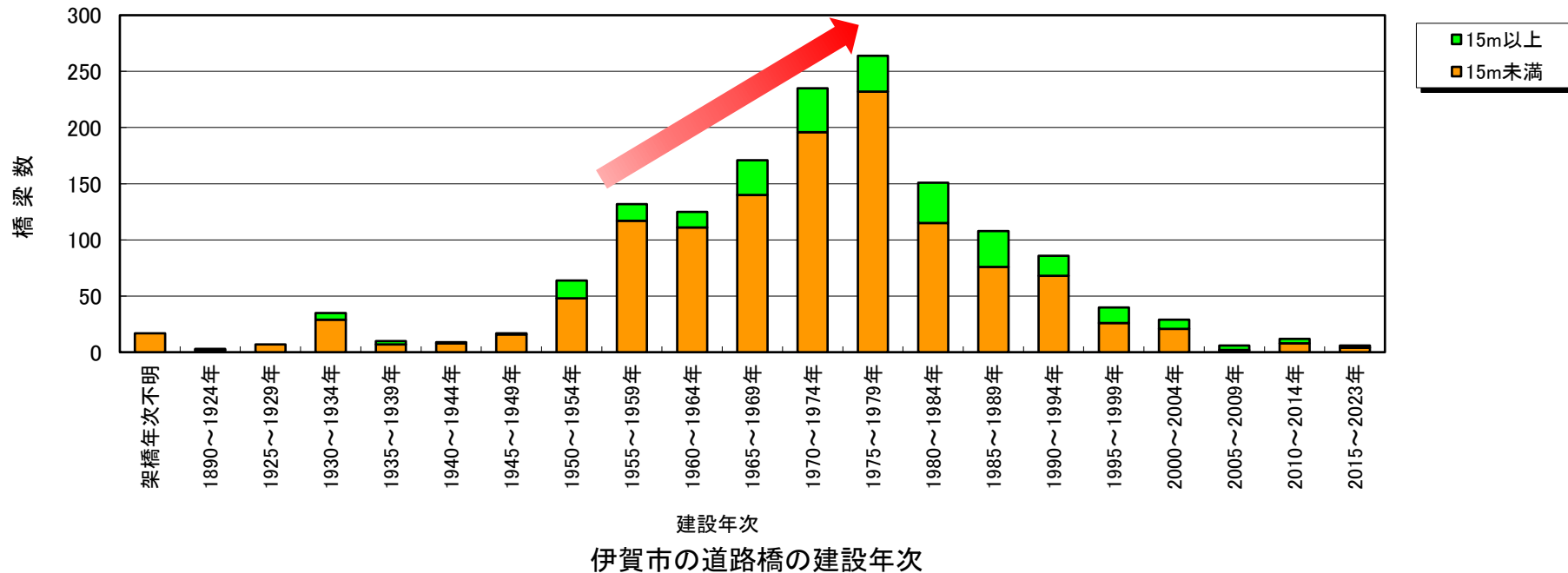
令和7年12月 伊賀市建設部 道路河川課

# 1. 道路橋等管理を取り巻く背景

## (1) 道路整備の経緯

道路は、人の移動や物資の輸送に不可欠な基本的社会資本であり、社会経済の発展や国民生活の向上に大きな役割を果たしています。

伊賀市の道路橋は、全国と同じく高度経済成長期の前後に大量に建設されてきており、2024 年度末時点において1,527橋を管理しています。

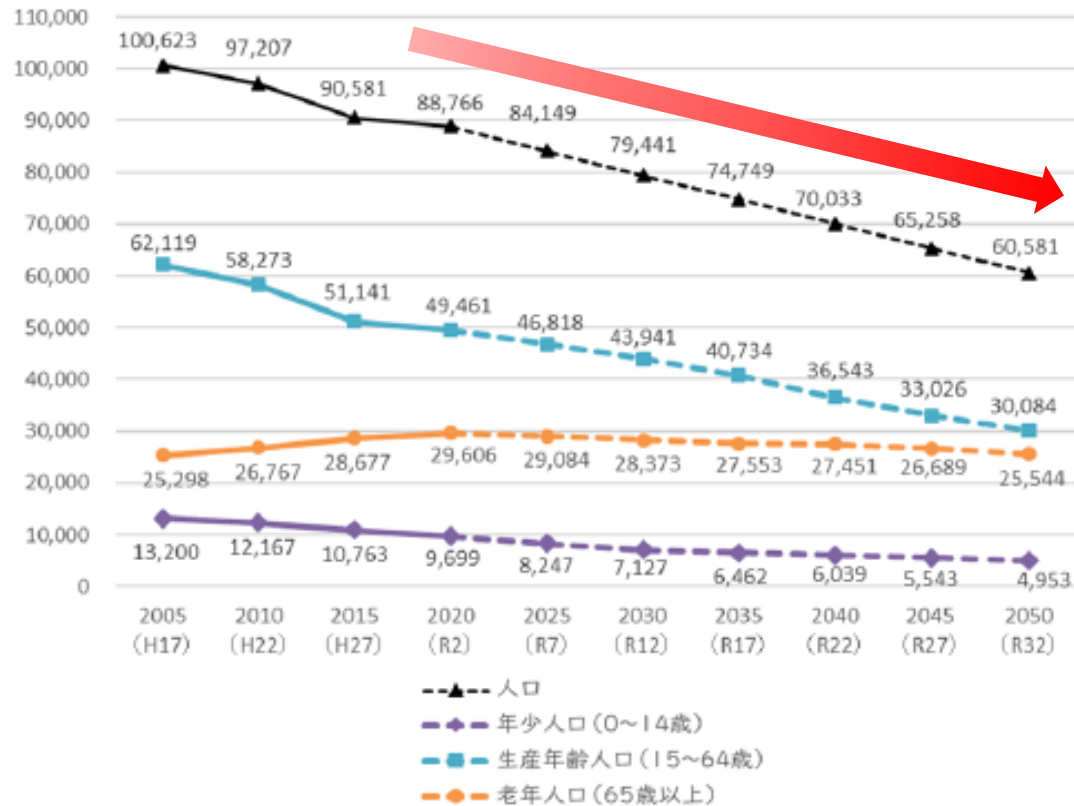


# 1. 道路橋等管理を取り巻く背景

## (2) 道路橋等を取り巻く社会構造の変化

一部の道路橋においては、建設時からの時間経過と共に、農業・産業などの土地利用の変化や周辺人口の減少に加え、周辺の道路が整備されたこと等により、利用する交通量が著しく減少している道路橋もみられます。

人口の推移



伊賀市の人口と将来推計(国勢調査と社人研推計による)

	実績値 ←				→ 推計値					
	2005 (H17)	2010 (H22)	2015 (H27)	2020 (R2)	2025 (R7)	2030 (R12)	2035 (R17)	2040 (R22)	2045 (R27)	2050 (R32)
年少人口	13,200	12,167	10,763	9,699	8,247	7,127	6,462	6,039	5,543	4,953
生産年齢人口	62,119	58,273	51,141	49,461	46,818	43,941	40,734	36,543	33,026	30,084
老年人口	25,298	26,767	28,677	29,606	29,084	28,373	27,553	27,451	26,689	25,544
人口	100,623	97,207	90,581	88,766	84,149	79,441	74,749	70,033	65,258	60,581

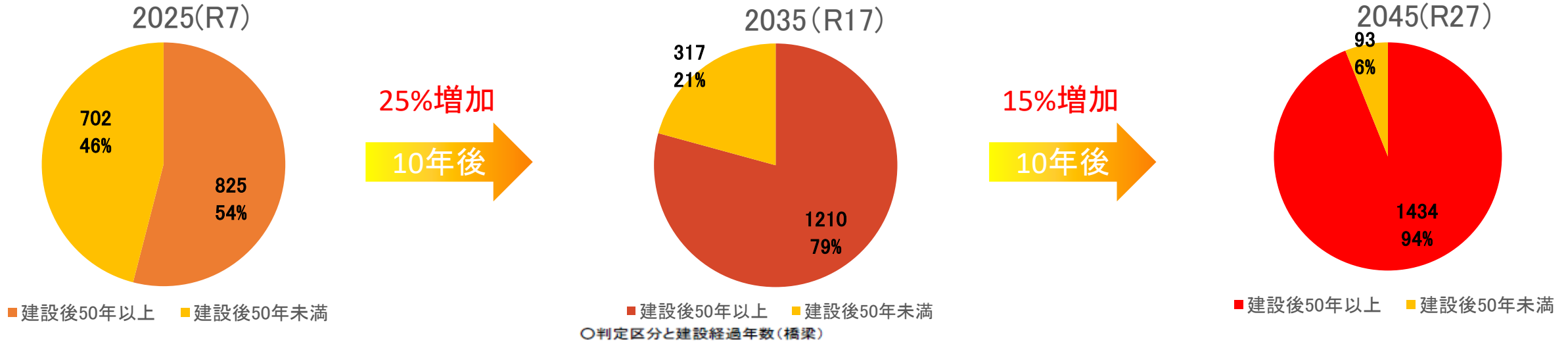
※国勢調査及び「日本の地域別将来推計人口」(令和5(2023)年推計)

さらに人口推計によると、2035年には現在より、1万人弱の人口が減少すると推測されています。

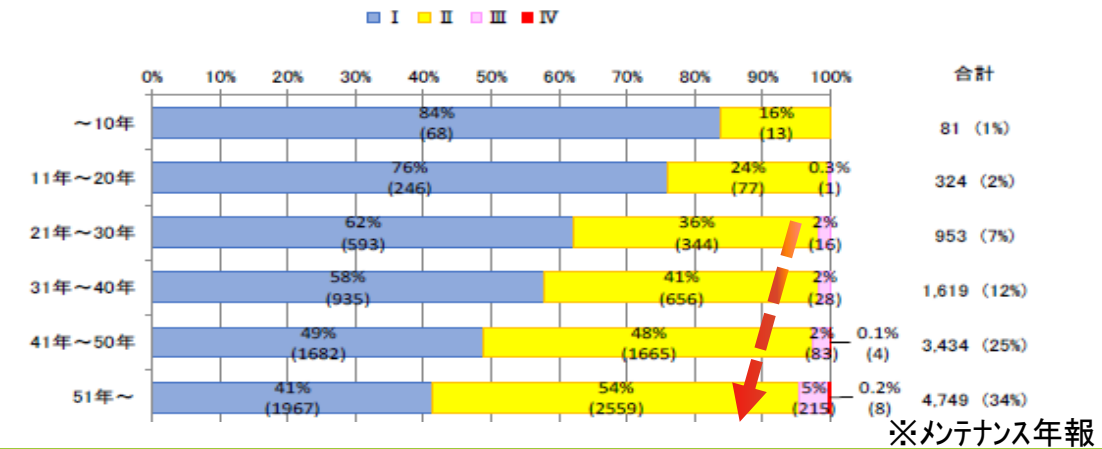
# 1. 道路橋等管理を取り巻く背景

## (3) 道路橋等における老朽化の進展

今後、伊賀市の道路橋1,527橋のうち、建設後50年を経過した道路橋の割合は、2025年時点の54%から10年後の2035年には約79%に増加します。さらに10年後の2045年には約94%に増加します。



県内の道路橋において実施された定期点検結果によると修繕が必要な状態と判定された施設は、経過年数が増えると高くなる傾向が確認できます。



# 1. 道路橋等管理を取り巻く背景

## (4) 修繕が必要な道路橋に対する伊賀市の修繕実施状況

伊賀市では、2019年～2024年の間に修繕などの対策が必要となった施設158橋に対し、113橋の修繕を実施しており、修繕完了率は71.5%となっています。

管理者名	年度	年度ごとの修繕数	修繕が必要な施設数	修繕完了合計	修繕完了率 (%)
伊賀市	2019	28	86	113	71.5%
	2020	27	73		
	2021	23	59		
	2022	14	55		
	2023	19	59		
	2024	2	47		

修繕工事と併せて  
橋梁点検 400橋/年  
を実施

※20万円/1橋

- ・ 伊賀市は県内で3番目に多くの道路橋を管理しています。
- ・ さらに毎年、修繕工事と併せて約400橋の橋梁点検を行っており、道路橋を適切に管理するために、毎年多額の予算が必要となっています。
- ・ また、1人当たりに占める道路橋の数も1,000橋を超える市町においては、県内で一位となっています。

	橋梁	人口	人口1人に対する橋梁の割合
津市	2,243	268,388	0.00836
四日市市	1,118	306,378	0.00365
伊勢市	436	118,849	0.00367
松阪市	1,747	156,026	0.01120
桑名市	590	137,978	0.00428
鈴鹿市	916	194,451	0.00471
名張市	319	74,229	0.00430
尾鷲市	166	15,524	0.01069
亀山市	312	49,130	0.00635
鳥羽市	143	16,424	0.00871
熊野市	419	14,981	0.02797
いなべ市	433	44,507	0.00973
志摩市	287	44,110	0.00651
伊賀市	1,524	84,603	0.01801
木曾岬町	226	5,875	0.03847
東員町	136	25,737	0.00528
菰野町	390	40,758	0.00957
朝日町	27	11,107	0.00243
川越町	70	15,745	0.00445
多気町	403	13,637	0.02955
明和町	240	22,630	0.01061
大台町	198	8,204	0.02413
玉城町	167	15,035	0.01111
度会町	61	7,556	0.00807
大紀町	170	7,227	0.02352
南伊勢町	305	10,489	0.02908
紀北町	257	13,759	0.01868
御浜町	149	7,809	0.01908
紀宝町	142	10,120	0.01403

# 1. 道路橋等管理を取り巻く背景

## (5) 老朽化に伴う落橋リスクの増加

- ・コンクリートや鉄などで作られた道路橋については、道路法により5年に1回の法定点検を実施しています。建設後50年を超える道路橋では多くの損傷を確認しており、早期に修繕が必要な施設のうち、8割が50年以上経過した道路橋となっています。
- ・今後さらに老朽化が進むと法定点検やメンテナンスを行っていても、突如として落橋するリスクが高まります。



鉄筋コンクリート桁の劣化(60年経過)



鋼桁の腐食・破断(60年経過)



基礎の洗堀(80年経過)

架橋後、65年が経過し落橋した橋梁

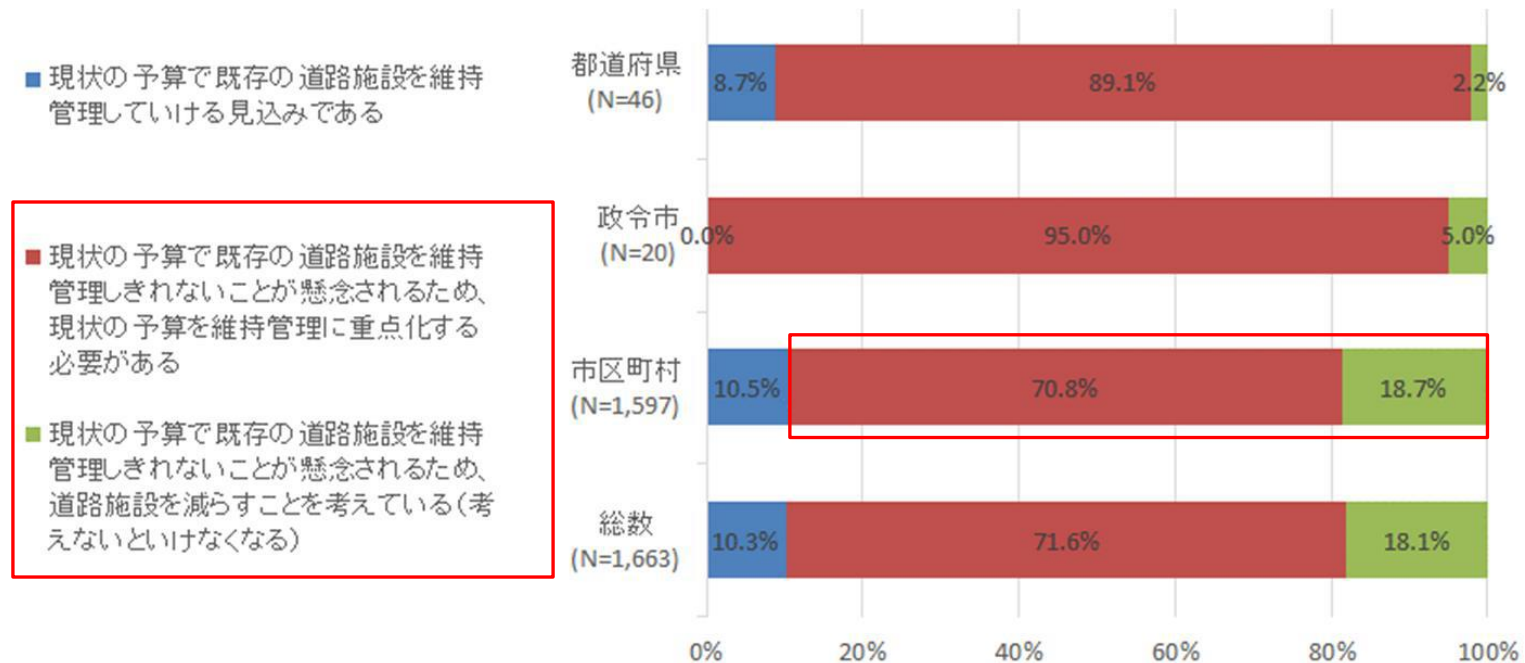


※全て市内の橋梁

# 1. 道路橋等管理を取り巻く背景

## (6) 地方公共団体における厳しい財政状況

- ・道路橋の老朽化に伴い、維持管理費や修繕費などが増加することが想定される中、全国的に予算の確保が課題となっています。
- ・アンケート結果によると、約9割の地方公共団体が現状の予算では、既存の道路橋を維持管理しきれなくなることを懸念しており、伊賀市も1,500橋を超える施設を永久に管理し続けることは困難であると考えています。

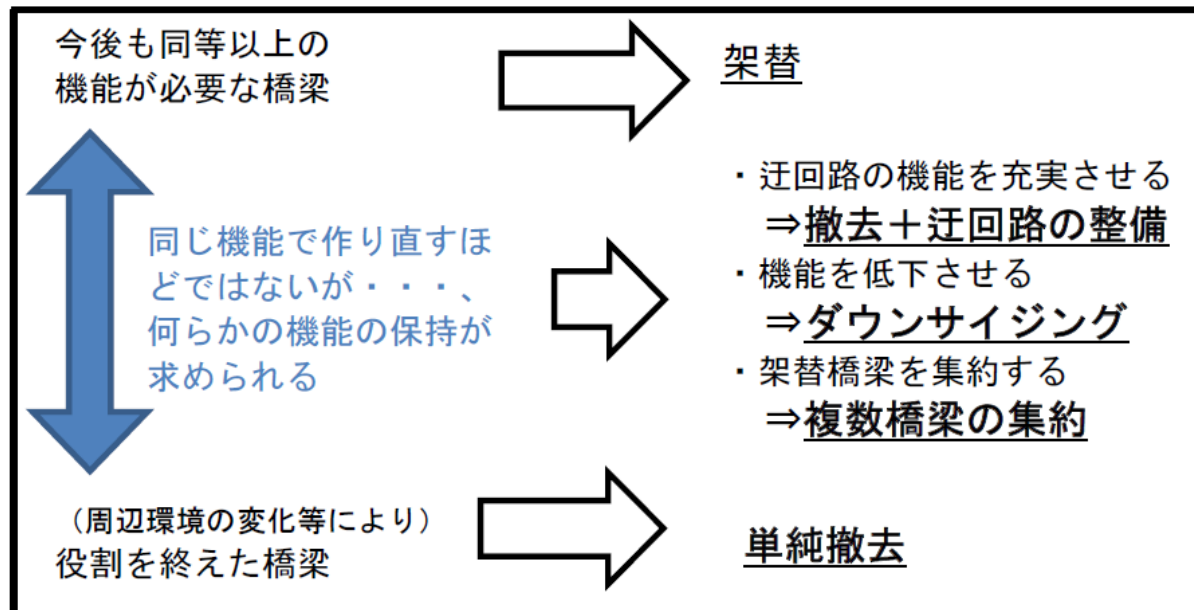


現状の予算に対する道路施設の維持管理(点検・修繕)状況について

## 2. これからの道路橋の管理について

### (1) 背景を踏まえた集約・撤去の必要性

- ・ 道路橋の老朽化が進展していくと、人的被害などを伴う落橋が発生するリスクが高まるため、道路管理者には適切な維持管理が求められています。
- ・ 一方で、日本は戦後の急激な道路交通需要の増大に対応して道路延長を伸ばしてきましたが、人口減少や土地利用の変化、周辺道路網の整備等により、利用交通が著しく減少している道路橋が多くみられます。
- ・ 全国的にも老朽化対策の予算確保が課題となっている中では、老朽化対策の一つとして地域の実情や利用状況に応じて道路橋の集約や撤去を選択肢とすることが、長期的な視点で見た際には有効な手段となります。



修繕などを行って道路橋の寿命を延せても永久ではないため、いつか寿命が尽きます。

大規模な修繕や架け替えなどを実施するためには、莫大な予算が必要で、全ての道路橋に対して実施することは伊賀市の財政状況では非常に困難です。

必要な道路橋を残し、利用状況などにより集約や撤去を行うことは、将来に向けて安定した道路サービスを守ることに繋がります。

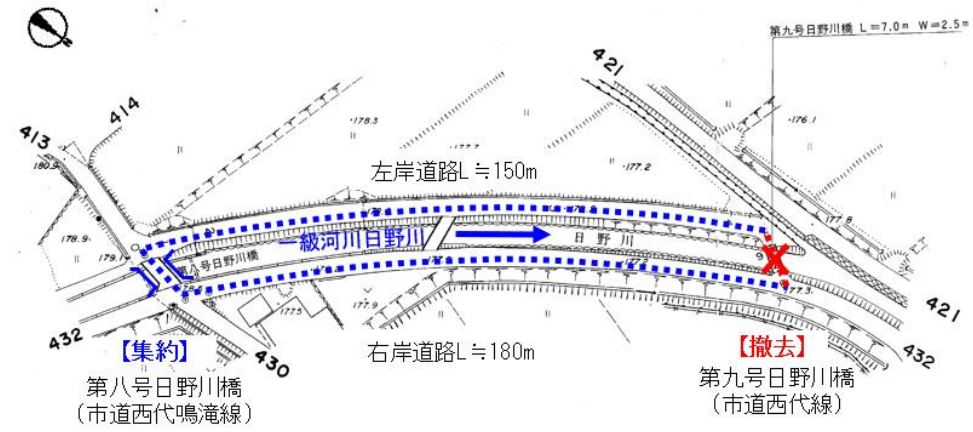
# 2. これからの道路橋の管理について

## (2) 集約・撤去の事例など

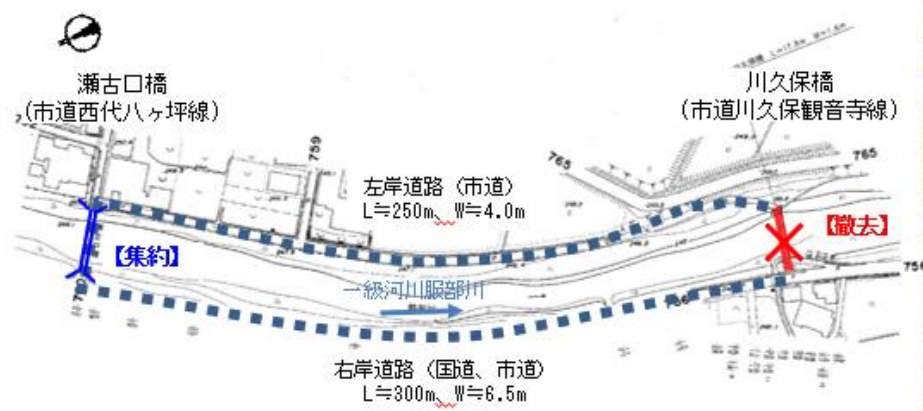
事業内容	概要	イメージ図	
		Before	After
単純撤去	迂回路整備を伴わない、橋梁の撤去		
撤去+迂回路整備	撤去に加え、撤去する橋梁の迂回路となる経路に対する整備を実施		
ダウンサイジング	既設縮小化 既設の車道橋を活用し人道橋等にリニューアル		
	新設縮小化 既設の車道橋を撤去し、人道橋として架替を実施		
複数橋梁の集約	隣接する複数橋梁を撤去し、機能を集約した橋梁を新設		

### 伊賀市の事例

・橋梁下部工が沈下し、通行止め措置その後、利用頻度などを地域と協議し撤去



・潜水橋で治水上問題あり、過去にも増水等の被害も発生していた。利用頻度が著しく低下しており、地域と協議し撤去



## 2. これからの道路橋の管理について

### (3) 伊賀市のこれから

- ・ 伊賀市は安全性や信頼性を確保した道路サービスの提供を目的に、「伊賀市 橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、予防保全型の管理手法へ転換することを目標としています。
- ・ また、1,500以上の施設を管理しており、財政状況や人口減少などを考えると、永久にすべての施設を管理し続けることは、困難であると考えています。
- ・ これからは、通常の維持管理に加え、経済状況や施設の利用状況の変化、施設周辺の道路の整備状況に応じて、橋梁の集約・撤去や機能縮小などにより、管理施設を減らし、将来の負担の軽減を検討しています。

昔は使っていたが、最近はほとんど使っていない

通行止めとなっても迂回路がある

昔は、農業や山仕事などに使っていたが・・・今は山や農業に行かなくなった

車で通らなくてもいい、人さえ通ればいい

【お問合せ】

伊賀市 道路河川課 事業推進係 電話 0595-22-9725